
魔道士とチップ

槍咲雫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔道士とチップ

【Nコード】

N0299N

【作者名】

槍咲雫

【あらすじ】

昔、魔獣どもがこの地球に降り立った。その魔獣どもは、いまだ現在に至っても、存在している。

その魔獣を倒すべく、地球にいる主人公の友達。

その友達に、協力してほしいと主人公は頼まれ、チップを　！？

これは、そんな主人公と友達たちのお話。

第一章 日常の崩壊

今から300年ほど前

地球に、魔法使いが降り立った。

彼らは人間を攻撃するわけではなく、友達になりたいと言ってきた。人間は、それを拒んだ。

魔法使いなど初めて会ったし、そんな非現実的なものと仲良くなれるとは考えなかったからだ。

魔法使い 魔道士たちは悲しんだ。そして、国へ帰ることにした。

そんな時、ある騒動を聞く。

自分達のいた世界には、数々の魔獣が住んでいた。

その魔獣共が、自分達と共に地球に降り立ち、地球を荒しているというのだ。

魔道士達は、途方にくれた。

自分達の行いの所為で、人間が被害にあっている。

それは、許されないことだ。

彼らは、その魔獣共を排除するために、この地球に留まった。

これは、その彼らの子孫達のお話。

「おはよう、玲！」

「おはよう、実加」

ある都市のある中学校で、2人の少女が笑いあいながら、朝の挨拶をした。

彼女達の名前は、神華名玲と菅野実加。中学2年生である。

今日もいつもどおりに学校に通い、いつもどおりに授業を受け、いつも通り帰宅する。

そんな日を描いている、ただただ純粋な中学生。

だが、その日常は、今日で終わりを迎えるなど、誰が予想しただろうか・・・？

ただいま、2時間目の授業、体育。

今日の体育の女子は、外でサッカーをやっている。

真夏の太陽が、彼女達を意地悪そうに照らしていた。

「あ、あつい・・・こんななかの体育なんて、やってらんないよ」
そう呟くのは、玲と実加の友達、瑞野亜里沙。

「うん、確かに、今日は暑いね」

そう、小さな声で、少し控えめに返事を返したのは、亜里沙の横に立っている、弱々しそうな女の子、東堂彩女。

4人は少し日陰が出来ている木の下で、ボールを蹴りながら、しゃべっている状態だ。

周りでは、他の女子生徒20名程度が、ひなたでボールを蹴りあっていた。

そんな、学生の日常。これが、普通なのだ。

そして、この日常は

「な、何あれ!？」

「ちょ、や!きゃあああ!!!」

耳をつんざくような悲鳴と、

くおおおお

ズシン、ズシン

足音によって、終わりを告げた。

「な、何・・・あれ・・・」

最初に口をあけたのは、亜里沙だった。

4人が見ているのは、怪獣、という単語がぴったりと当てはまるような物体だった。

それは、大きな口と牙に、大きな体を持ち、でかい足で歩き、地面を揺らしていた。

非科学的な物体。何もかも常識がきかないような、授業でも習わない物体。

それが、今口をあけ、

炎を、吐き出した。

周り一面に、首を振りながら炎を撒き散らしていく。

逃げ惑う生徒たちの一部に、その火の粉がふりかかりはじめた。

体操服が、燃える生徒もいて、グラウンドには、混乱が広がっていた。

そして、ついにあの物体の首が、玲たち4人に向けられた。

大きく開いた口から、赤い赤い炎が、吐き出された。

ぼおっという音と共に、暑さを感じて

玲は、その瞬間に、死んだと確信した。

>物体から吐き出された熱は、少々離れていても、そう確信されるほど熱かったのだ。

ああ、最後にお父さんやお母さん、おばあちゃんやおじいちゃん、それに妹やお姉ちゃんに、会いたかったなあ・・・。

そう、走馬灯のようなものが流れ始め、後悔の念まで押し寄せてきたその時

玲は、あることゝ気がついた。
あまりの恐怖に目をつぶってしまい、周りは見えないのだが、わかることが一つ。

熱く、ない

そう。先ほど、>物体<から吐き出された炎は、今頃なら玲たち4人に到達し、包み込み、燃やし尽くしているはずなのだ。

それなのに、先ほど感じた熱さは微塵も感じられず、それに、考えごとをしていても大丈夫なくらい、時間に余裕がある。

おかしい。これは、確実におかしい。

そう思った玲は、恐る恐る目を開けてみる。

すると、目の前には、>物体<の吐き出した炎を受け止める、彩女がいた。

- 続く -

第一章 日常の崩壊（後書き）

読んでいただき、ありがとうございました

続きを後悔する予定ですので、よろしければ読んでいただければ幸いです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0299n/>

魔道士とチップ

2010年10月10日20時09分発行